

14 閨巷稱弁御

○●○○○

俗謂貴女爲御。蓋取夫人女御之義也。藤相公、兼弁官、故稱其女也。

15 其父共公卿

○○●○○

16 當時幾驕倨

○○●○○○

17 昔金如泥土

●○○○○●

18 今飯無饜飮

○○●○○○

19 思量汝於彼

○○●○○●

20 天感甚寬恕

○○●○○○

詩形

押韻・韻字

五言古詩。

仄声六御韻の通韻。韻字は「去・語・處・絮・據・助・御・倨・飮・恕」

*原文は、概ね岩波古典文学大系本に拠るも、十七句目の「如沙土」は解釈上、一部の写・刊本にある「如泥土」を採った。

訓読

1 衆姉は惣て家に留まり

2 諸兄は多く謫去す

3 少男と少女と

4 相随ひて相語るを得たり